

## 5.寄稿

# イラー・フォルモッサ

社団法人 日本環境測定分析協会  
(千環協顧問) 岡崎成美



日環協が隔年毎に実施している海外環境事情視察に事務局として参加した。今回は平成 17 年 11 月 22 日から 26 日、台湾の環境事情を視察した。

ビッシリと詰った公式スケジュールであったが、そこはこの 1 年間で 1 泊以上の国内国外の観光旅行を 11 回したほど旅行好きの私、『忙中作閑、賢人為観光』とでも言うか「環境事情」のみならず「観光事情」も十分に視察してきた。印象に残った数箇所について記す。なお、真面目(?)な「環境事情視察報告書」は、日環協の「環境と測定技術」誌 33 巻第 2 号に掲載する。

標題の「イラー・フォルモッサ」は、大航海時代に台湾沖を通過したポルトガル船籍の乗組員が残した言葉で「麗しの島」と言う意味であり、英語で台湾を意味する Formosa の語源になっている。

### 1. 中正機場（空港）

成田空港発の 8 名と中部空港発の 2 名及び女性の現地ガイド（張容慈さん）は午後 1 時、台北の中正機場で合流した。張さんはタレントの青木さやか似、機内の我が列担当の客室乗務員は黒木瞳似だったのに……。しかし、張さんは台湾でのガイドのみではなく、台湾人旅行社の添乗員として数え切れないくらい来日しており、日本の観光地や風習について実に良く知っていた。



成田空港



中正空港

ターミナルビルの外に出ると緑地帯があり、植木は日本式に刈り込まれておりミニ和風庭園といった感じである。市街地にもこのような庭園、和風の民家、旧台湾総督府、二宮尊徳(金次郎)像、鳥居といった日本統治時代の面影を残すものがいくつもあり、しかも立派に使用されており対日感情も良い。日本の面影を残す物は徹底的に破壊された朝鮮半島とは大きな相違がある。やはり、実施した政策の違いによるものであろうか。

マイクロバスに乗り自動車道を今回の視察の拠点となるホテル・富都大飯店へ向かう。

車窓からは様々な漢字の看板が目に入る。意味が明確に分かるもの、何となく分かるもの、全く不明のものがあり面白い。また、外来語・外国語については日本のようにカタカナがないので、それを漢字で表すため意識や音訳の工夫がされており興味深い。

とにかく大げさなもの、ユーモラスなもの、なるほどと思うもの等がある。

見かけた看板の台湾語、外国語を問わず記憶に残っているものを幾つか列記してみよう。読者は幾つ解読できるだろうか。解読の一助とするため大まかに交通関係、建物関係、分析室関係、その他の順に記す。

汽車、火車、機車、收費停車場、計程車、大客車、公車、巴士、博愛座、山武仕、頭等倉艙、商務艙、經濟艙、投幣式自動洗機、大樓、安全門、請按鈴、獨棟住宅、電梯、客梯、貨梯、豪園飯店、歐日式套餐、酒會、便利店、全家便利店、關東煮全品10元、化学煙櫃、感応結合電彰質譜儀、氣相層析儀、高速液層析儀、液相層析串聯質譜儀、儀器、器皿清洗室、甲醇、勞力士、麥當勞、歐米茄、牙医、巧克力、研發中心、網際網路、科技創新、文理補習班、傳真機、行動電話、汽車旅館。

正解は順に次の通りである。

自動車、汽車、バイク、料金所、メーター付きタクシー、大型バス、路線バス、バス、シルバーシート、ヤマハ、ファーストクラス、ビジネスクラス、エコノミークラス、コイン式自動洗濯機、ビルディング、非常口、非常ベル、戸建住宅、エレベーター、人用エレベーター、荷物用エレベーター、グランドホテル、洋食和食、宴会、コンビニ、ファミリーマート、おでん一品10元（約33円）、ドラフトチャンバー、ICP/MS、ガスクロマトグラフ、高速液体クロマトグラフ（HPLC）、LC/MS/MS、機器、器具洗浄室、高純度、ローレックス、マクドナルド、オメガ、歯科医、チョコレート、研究開発センター、ハイテクノロジー、文系理系学習塾、ファクシミリ、携帯電話、……。

最後の正解は省略するが、冒頭にヒントもあることから賢明な読者は直ぐに解読できるだろう。

自動車道を降り一般道に入り都心に近づくにつれて、東京ほどではないが交通渋滞が激しくなる。台北市は盆地であり、自動車排ガス規制もないので空気が汚れている。そのため、バイクのドライバーはマスクをしている人が多い。マスクは日本で一昨年の春頃から多く見かけるようになった、肌に密着したウルトラマン風のもの（外国人には異様に見えるらしいとの新聞記事を見たことがある）ではなく、果たして効果があるのかと思うほどゆるやかなものである。おまけに、「ドクターランプあられちゃん」や「ちびまる子ちゃん」のキャラクター入りが多いため、防塵効果を期待するよりもファッションではないかと思う。自動車も多いが国内には生産工場がなく、非常に高価（関税は数年前までは50%、現在は35%）なため、庶民の交通手段の主流はバイクである。

バイクは出勤時、退社時には交通渋滞の元凶になっているが、北京の自転車やホーチミンのバイクの大群に比べると大したことはない。人口は北京が1,300万人、ホーチミンが700万人に対し台北は270万人だからであろう。3市に共通しているのは交通マナーが悪いということである。ガイドが言っていたが、人迷惑を考えるような人は一人もいないそうである。



大気監視局

ホテルで小休止後、台湾環境検験測定商業同業公会（日本の日環協に相当）主催の歓迎宴会場へ望む。台湾料理、台湾ビール（マイルドで飲みやすい。シンガポールのタイガーやフィリピンのサンミゲルのような味）、千年老酒（千年は貯蔵期間を意味するのではなく、長期貯蔵品と言う意味であるが何年以上と言う定義もないらしい）に舌鼓。



台湾環境検験測定商業同業公会の歓迎宴会場

料理はアワビ、姿のままのフカヒレ、カラスミ、北京ダックなど贅沢な食材がふんだんに使われており申し分ない。日本が50年間統治していたため、日本人好みの味に変化したのであろうか香料は殆ど使われておらず、日本で食べる中華の味付けと告示している。特に酢豚や豚の角煮（これが中華料理かどうかは別として）は全く日本のと同じである。形は中華であるが、和食と言っても良い位である。かつて、中国大陸に2度旅行したことがあるが北方（北京、上海、西安）、南方（昆明、桂林、広東）とも食事には閉口した。楽しいはずの食事時間が近づくると苦痛になり、レストランが近づくると臭いに悩まされた。そのため、視察団のメンバーに日本の中華とは全く異なるので、食べる自身のない人にはと「フリカケ」持参を勧めたことが恥ずかしかった。



ある日の昼食風景

左：笠井団長（日環協会長）・中：濱地副団長（日環協副会長）

朝はホテルでビュッフェであるが、昼夜連日このような豪華な食材を惜しげもなく使った台湾、北京、広東、上海料理と続き大満足であった。

### 非常感謝（スイチャンカンシエ）！！！！

華人は「熱烈歓迎」で迎えるが、訪問者は何と答えれば良いかと疑問をもった。

（株）環境管理センター環境基礎研究所副所長の王寧（ワンニン）博士に聞くと「非常感謝」が良いと教えてくれた。何度か発音練習して王博士にそれなら大丈夫と言われていたので、ガイドに聞いてもらったところ発音が違うといわれた。王博士は、恐らく北京語の発音で教えてくれたのだから止むを得ない。北京語と上海語、広東語、四川語等は全く発音が違うらしいから、台湾で北京語が通じないのも当然であろう。

かって、タイを旅行した時バンコクまで迎えにきたチェンマイ育ちのガイドが、バンコクの子供とは言葉が通じず、会話ができないと言っていたのを思いだした。

2日目は行政院環境保護署環境検験所（日本の国立環境研究所に相当）及び台湾環境測定商業同業公会（前述）の視察及び情報交換を行った後、観光にでかけた。以下、日程は省略するが印象に残った観光先のエピソード等について記す。

## 2. 龍山寺

台湾で最も由緒ある古刹であり、信仰の中心となっている。境内にいくつもある大きな供物台にはお菓子、果物、野菜等が所狭しとばかりに供えられ人々は一心にお祈りをしている。お祈り終了後、供物は持ち帰ると言うから面白い。この習慣は台湾ではどこでもそうであるとのこと。もっとも、あれだけたくさんの供物を置いて帰られたら寺としても困るに違いない。



龍山寺



ガイドの張容慈さん：青木さやかに似ていると思いませんか？



供物台

この寺でもう一つ面白いことに遭遇した。他人同士で縁がある場合、俗に「不思議な赤い糸で結ばれている」と言うが、そのルーツはこの寺であるとガイドは言う。

奥の方に小さな祠があり、赤い糸を入れた5×9cm位のビニール袋が置かれている。



赤い糸

お賽銭をして一つだけ頂き、「思う人のこと」あるいは素敵な「巡り合い」を期待してお祈りすれば願がかなうという。ただし、独身者に限るそうである。しかし、見ているとお賽銭もお祈りもしないで「赤い糸」を失敬している人が結構いるので、私もそれで数個失敬してきた。それを何人かに差し上げたが、きっとご利益はないであろう。少し意味合いは異なるが、華人には風水を信じる人が多い。ガイドに聞いてみたら、やはり信じるとのことであった

### 3. 中正記念堂

言うまでもなく、中華民国初代総統の蒋介石を記念して作られたものである。建屋は台湾産の総大理石造りで、ワシントン DC のリンカーン記念堂やジェファーソン記念堂のような形をしており、中に巨大な蒋介石像がある。また、蒋介石ゆかりの品物（例えばマニラの華僑から送られた防弾ガラス窓付きのキャデラック）も展示されている。そこに至るまではやはり大理石造りの階段を上るが、これは北京の故宮の階段そっくりで作られている。



視察団の 10 名



ニッカウキスキー(株)の結城さん

中正記念堂

記念堂は中華民国による台湾支配の象徴でもあり、近年その立場は微妙なものらしい。蒋介石像を守っている 4 名の兵士は 1 時間交代である。以前は 2 時間交代であったと言うがその間、瞬き一つ許されないのはやはり現代の若者には無理であろう。陸海空 3 軍が一月交代で勤めているが、名誉ある一組の兵士に求められるのはとにかく同一身長（約 175 cm くらい）であり、容姿や頭脳は関係ないらしい。屋内のせい、それともこの月の当番が陸軍でありダークグリーンの軍服のせい、ともかく重々しい雰囲気というのが印象的であった。当然、「静粛に」の看板は立ててある。



蒋介石像を守る兵士

#### 4. 忠烈祠

日本統治時代の護国神社跡地にあり、辛亥革命や抗日戦争の犠牲者を祀っている。ここも兵士が交代で守っているが屋外であること、晴天であったこと、この月は空軍の担当で純白の軍服のせいかわるい雰囲気であった。おまけに観光客の求める記念撮影に気軽に応じ、白い歯こそ見せないが微笑み、中にはピースサインをする兵士さえも何人かいた。初代総統と一般の兵士と言う違いもあるかも知れない。

デジカメ全盛の昨今であるが、万一に備えフィルム式のカメラも持参していたが、ここでシャッターがきれなくなった。電池切れである。ガイドに売っている所を聞いたが、特殊品なので知らないが、国立故宮博物院にフィルムを売っている売店があるので、ひょっとするとあるかも知れないと言う。他のグループのガイドにも聞いたが、同じ返事であった。

#### 5. 国立故宮博物院

到着後、すぐに売店に行き電池の有無を聞いたが置いていなかった。

博物院は折りしも改造中（2006年6月完成）であったが、全院閉鎖ではなく本館の一部と別館が見学できた。親子3代に渡ると言う気の遠くなるような年月をかけて作られた精緻な象牙彫刻、翠玉白菜と言った目玉収蔵品は別館で見ることができた。



国立故宮博物院

少し横道にそれるが、台北～高雄間の新幹線は種々のトラブルのため、開通が1年延期され2006年10月になったので、それ以降に行けば改造なった博物院の見学、新幹線の試乗も可能である。



ご承知の通り故宮博物院は元々、北京にあったが内戦の時にその収蔵品の一部を持ち出したものである。これまでは良い物は全部台湾にある、「それはそうでしょう、誰も良い物から持ち出すのは当たり前」などとそれなりの人に言われると、成るほどと思ったものであるが、一概にそうとは言えない。やはり「百聞は一見にしかず」である。

すなわち、皇帝の玉座や天蓋付きの豪華なベッド、大きな青銅器・玉や翡翠製の彫刻、焼き物と言ったものはみんな北京にある。つまり、持ち出すことができたのは「小物」ばかりである。

しかし、その数たるや大変なものである。約70万点あり、約7千点ずつ半年間展示しているというから、全収蔵品の展示が一回転するには実に50年かかることになる。博物院の学芸員を含め、全収蔵品を見た人は一人も居ないと言うのは本当であろう。

さて、私の行く国内外の観光地はどこでも熟年カップル、母娘、若い女性のグループがほとんどであり中年や若い男性を見かけることは滅多にない。私と趣味が違うのだろうか、それなら問題ない。しかし、働き盛りで休暇がとれない、子女の養育費等で経済的な余裕がないと言うならば悲しい。

故宮博物院も例外ではなく、しかも7割位は日本人であった。残りが台湾の修学旅行の中高生と外国人であった。

## 6. 志林（しりん）の夜市

台湾最大の夜市として知られている。食べ物や食材と衣類や日用雑貨が売られている所は通りを隔てて区別されている。屋台とは異なって屋根の下で営業しており、高知の「ひろめ市場」や下関の「カモンワーフ」の巨大版と思えば良い。もっと分かりやすく言えば幕張メッセで開催される分析展や自動車ショーのように、多数に区分けされた所で多くの店が営業している。屋内での営業権を持たない人は（違法に）、衣類や日用雑貨を道路の中央に並べて売っている。時々取締りあるが素早く察知し、あっと言う間に店をたたんで逃げるらしいから、当局と通じているのかも知れない。



志林の夜市

特に賑やかなのは食べ物や食材が売られて地区である。ここで、通訳として参加した内藤環境管理(株)の白亜力(バイヤリ)氏が突然オオッーと歓声をあげた。何と同社の女子社員に遭遇したのだ。台湾に行くことは二人ともお互いに知らなかった。彼女は台湾にハマッテおり、8度目の訪台で今回はお母さんが一緒と言う。



最前列が通訳の白さん

昼夜連続で営業している店も多くあり、交通至便な場所にあるのでここで食事を済ませて帰宅する人も多い。

交通に触れたついでに。鉄道や MRT の料金は身長により大人と小人が区別されている。

前者は120cm、後者は115cmを境としているのも不思議である。エネルギー負荷から考えると体重で区別した方が合理的に思うが、そうするとやはり問題があるのだろう。特に女性に。しかし、身長で差別化というのは沖縄でもあった。薩摩の侵略により、財政が苦しくなった琉球政府は1637年、宮古、八重山地方に限り身長が人頭税石(高さ143cm)を超えた場合、男性は粟、女性は上布の重税を課せるようにした。この悪税は実に1902年(明示36年)まで続いた。人頭税石は、負の遺産として宮古島に今も残っている。

## 7. 九份(きゅうふん)

かつて銀鉱山で栄えたところである。今は銀が枯渇したので廃鉱山となっているが、栄えた当時の住宅や商店(日用品、土産品)が急斜面に並んでおり、観光地として立派に成り立っている。大正レトロを思わせる風情の町であり、TVドラマや映画のロケにしばしば使われるらしい。

台湾で最初にできた映画館の廃屋があり、往時の繁栄ぶりを伺わせる。切符売場のガラス窓は鉄格子でガードされている。かつての荒くれ男達から守るため

あろう。

こんな田舎町にもコンビニのセブンイレブンがあった。電池があるかも知れないと思い、店員に聞くと驚くことにあったではないか。セブンイレブンの偉大さ？を認識させられた。

志林の夜市で強烈な悪臭に閉口した「臭豆腐（しゅうどうふ）（豆腐の厚揚げのようなもの）」がここでも売られていた。狭い路地の両側に隙間なく並んでいる食べ物屋、土産物屋の中に、臭豆腐を売る店が点在しており全くひどい悪臭である。食べると美味しいらしいが、とても食べる気にはなれない。



九份

## 8. 地方首長及び議員選挙と101タワー

投票日を間近に控え、立候補者は実に派手で激しい選挙運動を展開している。道路の中央緑地帯に所狭しとばかりに候補者の顔写真入りのポスターが立てられまた、路線バスの胴体一杯にも特定の候補者名が記されている。相当な金がかかるだろうが、それよりも公共の交通機関である路線バスに、特定の候補者名が書かれているとは驚くばかりある。

101タワーに移動中のときである。ケタタマシイ大音響が聞こえてきた。台湾海峡の政情が不安定な折、戦争でも始まったのかと一瞬思ったが選挙カーの大群であった。

これに比べたら、日本の某政治団体の街宣車の騒音などカワイイものである。前後とも数十台のバイクに挟まれ、候補者の乗った車が何かワメキながら猛スピ

ードで走り去って行った。

台北101タワー（台北国際金融ビル）は2004年に完成し、101階建て（高さ508m）、現在のところ世界一の高層ビルである。B1F～4Fまでは吹き抜けのモダンな内装のショッピングモールであり、日系の「太平洋そごう」も入っている。

観光客は89階の展望室まで超高速のエレベータで登れるが、料金が450元（約1,500円）と少々高い。しかし、台北市内が一望でき、眺望は素晴らしい。1階の床レベルは道路から1.5m位高い所にある。そこに立つようにガイドが言う。

何だか分からないがそうすると、次は別の人に、道路（歩道）にしゃがんで下から101タワーを背景に写真を撮ってあげれば足が長く見えると言う。本視察に参加したニッカウキスキー(株)の結城さんに撮影して戴いたが、101タワーが高すぎるのか私の足が短いのか、残念ながらそれほどの効果はみられなかった。

## 9. 環境分析事情

行政院環境保護署環境試験所、環境検験測定商業公会、大手民間会社4社（日本の九電工・旭硝子・JFEとの提携会社を含む）のラボ見学及び情報交換を行った。4社とも異口同音に日本の技術と台湾の（同じ華人としての）人脈を活かして、将来性のある中国の巨大市場へ進出したいと言っていた。

そのためには、まず技術者を派遣して欲しいと言っているから、その気のある方（年齢性別不問）は挑戦してみたら如何が。英語が出来るとベターであるが、冒頭のように漢字で書かれたものを解読できればよいし、会話は筆談でも良い。食は困らないし、成田から行きは4時間弱・帰りは3時間と近いし、気候も暖かくて過ごしやすい。



行政院環境保護署環境試験所

## 10. 土産

最後に土産。老若男女、趣味等により嗜好が異なるから何時も悩まされる。特に女性に対しては。買ってきたアクセサリが気に入られず、ソッポを向かれた苦い経験があるので、以後は主として食べ物にしている。これとても本当に気に入られたか否かは分からないが。

今回は故宮博物院収蔵品の油滴天目碗（抹茶碗）のレプリカ、カラスミ（味にピンキリがあるので安物はダメ）、チョコレートにドライフルーツ（バナナ、パイヤ等あるがマンゴーが良い）を乗せたもの、フカヒレの醤油煮が好評であった。

今後、台湾旅行される方の参考になれば幸甚である。



志林の夜市：白いニガウリ



免税店にて：ウーロン茶の試飲